

平成 30 年度第 1 回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：平成 30 年 6 月 27 日（水） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 25 分

■開催場所：職員会館かもがわ 2 階 大会議室

■議題：

（1）市民参加推進フォーラムの平成 30 年度の取組について

■報告事項：

- （1）新たに設置された附属機関等について
- （2）市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：

市民参加推進フォーラム委員 13 名

（池田委員，内田委員，大鳥井委員，金田委員，兼松委員，桜井委員，佐々木委員，菅谷委員，杉山委員，ハッカライネン委員，壬生委員，森川委員，山野委員）

■傍聴者：2 名

■特記事項：

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。

【議事内容】

1 開 会

2 委員自己紹介

<事務局>

自己紹介の前に，28，29 年度の 2 か年度，壬生委員に座長を務めていただき，大変御尽力いただいたのだが，歴代の座長が 2 か年度の任期であったことや，お仕事の御都合等から，座長の職を一区切りとされたいという意向を頂戴しているので，御報告する。

<壬生座長>

2 年間座長を務めさせていただいた。歴代の方は座長を終えられると委員を退任されて

いた。私は任期がまだ3年残っているのですが、できれば今後は2年間と違った形で委員を務めたいと思って事務局に話し、了承していただいた。今後も頑張りたいのでよろしく願いします。

<事務局>

ありがとうございました。なお、昨年度は副座長が二人いらっしゃったが、お二人とも退任されたので、現在、座長・副座長が不在という状況になっている。

座長の選任に移る前に、今年度、多くの委員の方が代わられたので、自己紹介をお願いしたい。

(以下、委員及び事務局自己紹介 略)

3 座長選出・副座長指名

<事務局>

参考資料3に記載のとおり、京都市市民参加推進条例の施行規則第9条第2項で「座長は委員の互選により定め、副座長は委員のうちから座長が指名する」となっている。

※以下のとおり、座長、副座長が選出された。

座長：杉山 準

副座長：内田 香奈，壬生 裕子（2名）

4 座長挨拶

<杉山座長>

専門家でもなく、学識経験者でもない私が座長となるのは僭越であるが、頑張らせていただく。市民参加推進フォーラムは、市民がいかに行政に参画していくかということをお話す場である。だからこそ色々な意見を頂戴できるのが良いところだと思っている。私もまだ腑に落ちない点や「ああ、そういうこともあるのか」といったこともあり、都度会議で伺って納得したり、感心したりすることがよくある。私も聞き役、引き出し役として務めさせていただきたいと思っている。よろしく願いします。

<内田副座長>

今年が委員3年目になる。普段、私自身はNPOの職員であり、沢山のNPOの方と接している中で、NPOという形で自分達の地域を良くしていくという動きがある一方で、行政にどう意見を伝えていくかということに大きな課題があるとも感じている。そういったハードル、市民側から見えている「難しいかな」と思えるようなところが、低くなるようなフォーラムであってほしいと思っている。皆さんと一緒に、ここを色々なことが言える場にして、ここで出た意見が沢山の人の人に伝わっていけばよいと思う。よろしく願いします。

<壬生副座長>

私は、公務員の方にどういう風が変わっていただけるかという点に関心がある。皆さんとは違った視点で意見を出していければと思っているので、どうぞよろしくお願いします。

5 議題

議題（１）市民参加推進フォーラムの平成30年度の取組について

<杉山座長>

議題「市民参加推進フォーラムの平成30年度の取組について」に入りたいと思う。まずは事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料1「第2期市民参加推進計画改定版の進捗に係る確認・分析（案）」、「今年度と来年度の取組（施策ごとの詳細）」説明）

<杉山座長>

定量的に測ることは数値で出せるから分かりやすいけれど、子ども、大学生など若い世代の市政参加の推進というような内容は、この会議の中で話し合う方が建設的ではないかという事務局からの提案である。このことについて御意見をいただければと思う。質問や分からない点があれば御発言いただきたい。

<金田委員>

青少年モニター制度とは、どのような仕組みでどのような方たちがどれくらい参加されているのか。

<事務局>

子ども若者はぐくみ局の育成推進課が所管している事業である。50名程度の青少年がモニターとして登録されており、その方達に対して年4回程度アンケート調査を行ったり、ワークショップを行って希望する方に参加してもらったり、ということをしている。若者の意見を市政に提言いただくような制度として運用しているものである。

50名から100名程度へと人数を増やしていこうとしているところであり、13歳から30歳までの京都市内在住、また、通勤通学している若者である。主に大学生や社会人だが、一部中高生も登録している。

<金田委員>

今回資料に記載のワークショップとは、育成推進課が行っているワークショップとは別

で開催するということか。

<事務局>

青少年モニター制度を使って，ということである。

<金田委員>

承知した。

<桜井委員>

施策4，5，8については数量的に把握するということだが，例えば情報の公開状況を見たときに，できてないところが何故できていないのか等，実態は一旦置いておき，数値のみの把握を行うということによいか。

<ハッカライネン委員>

ユニバーサルデザインについてだが，私から見ると，ユニバーサルデザインの定義そのものに疑問がある。そこを全く議論しないのは困る。

<杉山委員>

ユニバーサルデザインをどう捉えるか，データをどう評価するかということも，この場で議論することはできるのか。

<事務局>

まずはデータをお示しする。その後，他都市比較がよいのか等，分析を深めるための方法についてはまた御意見を頂戴したい。ユニバーサルデザインについても，議論を進める中で検討していきたい。

<杉山座長>

定量的なデータが出てきた段階で，それを評価する時間があり，それに対しての意見をこの会で議論できるということである。

他に何か御意見はあるか。

<山野委員>

施策6の分析については，ワークショップの手法を用いるという前提か。

<事務局>

今回は，一つの手法として提案している。

<山野委員>

今回の資料からだけでは、施策6の「子ども若者の市政への参加の推進」がなぜ必要なのかが分からない。目的と背景があった上での手法だと思う。今年度に、その点を議論するものではないかもしれないが。

<杉山座長>

この会議では、市民参加推進計画の進捗状況を確認することになるのだが、施策6については基本方針2の中の一つの施策として計画の中で既に決まっているものである。今はその検証のプロセスにあって、その手法として、例えばワークショップ等の手法を用いて実際の声を拾ってはどうかということなのだが、それに対して「こうした方法がよいのではないか」、「もっと幅広い声を聴く為にこうしたらよいのではないか」ということについて、御意見をいただければと思う。

<山野委員>

承知した。

<森川委員>

施策1, 4, 5, 8については、これまでのフォーラム会議において検証が終わったものなのか。今年度の検討対象に含まれているのか。

<事務局>

今年度の検討対象は、施策1, 4, 5, 6, 8というのが事務局からの提案である。

<森川委員>

ユニバーサルデザインに関する施策5について話す機会もあるが、その中でも、施策6に注力してはどうかというのが事務局からの提案であり、それに対して我々がOKを出すかどうかということか。

<事務局>

そうである。

<兼松委員>

沢山はできないから、今年はこれを象徴的にやろうということなのだと思う。

青少年モニター制度については、登録している方々は市政に参加している経験を持っている方々という定義になると思うが、そうであれば、市政に参加したことのない大学生の

意見を吸い上げる場も欲しいと思う。「市政に参加した大学生の意見」というのはかなりバイアスがかかったものになると思うので。

<大鳥井委員>

自分は青少年モニター制度に登録している。以前、若者の市政参加についてのワークショップがあったが、その場には、市政参加をしたというよりは、市政に関心があって、勉強している方が来られていた印象を受けた。

<兼松委員>

これから参加するよ、という方もいたということか。

<大鳥井委員>

そうである。

<事務局>

青少年モニターの実態として、長年登録されている方もいれば、今年度初めて登録した方もおられると思う。そういう人は、「まだ参加したことのない人」ということになると思うので、市政に参加したことがある人とない人の両方の意見が聞けると思う。

<佐々木委員>

基本方針1については初めて進捗管理を行うということであるが、基本方針2については一昨年の分析結果もフィードバックして分析するということになるのか。

<事務局>

一昨年に基本方針2を分析した際は、良い取組を2事業採り上げて、その紹介をすることで取組を広げていくことを目的にリーフレットを作成して配布した。今年度提案しているのは、基本方針2を全般的に分析してはどうかということである。

<佐々木委員>

一昨年度とのつながりなど、何か意識すべきことはあるか。

<事務局>

特に必要ない。

<杉山座長>

これまでの話の流れをまとめると、若い世代の市政への参加をどうしていくか、今現在

どうなっているかということについて、今年の議論の中心になりそうということである。

何か「もっとこうしたら意見が聞けるのではないか」というアイデアがあれば御発言いただきたい。

<池田委員>

青少年モニター制度は私も登録している。自分から興味があって登録したのではなく、京都学生広報部でつながりのある市の人から「登録して欲しい」という声掛けがあって登録した。自分から興味をもってもらうにはどうすればいいか考えているが、あまり思いつかない。活動していく中で考えていきたい。

<杉山座長>

そういう意見が貴重である。

<佐々木委員>

先日東山区役所主催のまちづくりカフェに参加した際、隣の席に座った大学生の、「余裕がないとこういう活動に興味をもって参加できない」という発言が印象に残っている。大学生の生の声として、「余裕がないと市政やまちづくり活動に自分から参加していかない」というのは、克服しないといけない課題なのかなと感じた。

<杉山座長>

そうした意見を沢山集めることによって、学生がより参加しやすい仕組みについて、具体的な方法が変わってくるかもしれない。

<兼松委員>

大学生は忙しいと感じる。授業に出ろということすら憚られるくらい忙しく頑張っているので、「授業に出た」ということが「市政に参加した」と言えるくらいの仕組みにすると、市政に参加する学生の数は増えると思う。言葉は悪いかもしれないが、強制する、ということが必要な時期かもしれない。結果的に楽しくなっても、その楽しさが最初はなかなか伝えにくい。

<桜井委員>

私も兼松委員と同じような考えである。選挙も同じで、若者が選挙に行きにくいという話の場合、啓発が行き届いていないという話になりがちだが、若者には組織化されるつながりが地域にも職場にも無いので、足を運びにくくなっているのだと思う。

こういうところに来ていたら、声掛けがされて、青少年モニターに登録される、市政に参加できる、ということになるとよい。学校などは、一つの場として機能しうる。

<杉山座長>

アンケート項目の一つとして「単位になったら行きますか」とあってもよいかもしれない。

大学で教えられている壬生副座長からはいかがか。

<壬生副座長>

単位は効果的だと思う。

政策学部でも、市政について知らない学生は沢山いる。授業等をうまくつかって広く市政参加について周知できれば、その中からは必ず何人かは興味をもって参加してくれる。そうした地道な取組も大事だと思う。

<杉山座長>

京都市は、授業単位や、大学コンソーシアムのような機関を使って、既にそのような取組をしているのか。

<事務局>

例えば、「市政出前トーク」では大学の授業に出向いて授業をするということは行っている。

<兼松委員>

事務局に協力いただいて、後期の授業で、お宝バンクに登録している団体の活動について学生が記事を書くということをするが、その授業に参加した学生は市政参加したことになるのか。

<事務局>

市政参加になる。

<兼松委員>

そうであれば、60人が新たに市政に参加することになる。

<事務局>

地域の取組に学生が参加するという取組として、「学まちコラボ事業」という事業も行っているし、市政への参加意欲・関心を高めてもらうために、審議会への委員の参画も呼び掛けている。30歳以下の方が参画している審議会の割合はまだ20%に満たない状況だが、平成31年度末までに20%にまで引き上げるという方針は出ているので、これから色々な仕

掛けをしていくことになると思う。

<内田副座長>

青少年と言った時、大学生に目が向きがちである。そこも大事だし、高校生に対しては学校に働きかけるというやり方もあると思うが、20代の働いている人たちも大事だと思う。学生ではなく、社会の中で働いている者として、どういう立場で社会の中で発言していくかといったことにも目も向けていく必要がある。

ワークショップのやり方として、1回で全ての層に対して行うということも考えられるし、大学生、高校生、社会人と分けてやる方法も考えられる。JCさんで20代の方を集めていただいて、層別の意見を集めるという方法もあると思うので、ワークショップのやり方についてはもう少し広く考えてもいいと思う。

<ハッカライネン委員>

ワークショップは固いイメージなので、よっぽどいい内容じゃないと参加しない。カフェのような柔らかいイメージで行う方がよい気がする。

学生だけでなく、高齢者や外国人も集まるような中でやる方がいいのかといった点も気になる。アンケートをするならそういった点も聞きたい。

<杉山座長>

いい御意見である。確かに、ワークショップのようなものに参加したいかどうかはわからない。

<桜井委員>

ハッカライネン委員がフォーラムに参加されて、マイノリティへの配慮について、議論できていなかったと気づいた。若者の中でも、外国人の方、障害のある方、低所得の方など、より参加しづらい方々にどう参加してもらおうかという観点が薄い気がする。

<杉山座長>

貴重な御意見ありがとうございます。多様な意見を入れて、多様な試みを行うと厚みのある資料が得られると思うが、時間は限られている。

ここで事務局からスケジュールについて説明いただき、確認していきたいと思う。

<事務局>

(資料2「市民参加推進フォーラム 平成30年度スケジュール(案)」説明)

<杉山座長>

説明いただいたスケジュールを見ると、8月下旬に行われる第2回会議において、ワークショップの内容やアンケートの設問項目、また、ワークショップやアンケートの対象者について話し合われる感じである。また、秋に公募委員サロンが行われるが、これも並行して検討されるということのようだ。

スケジュールに関して、何か質問等はあるだろうか。

<ハッカライネン委員>

施策1, 4, 5, 8についてももらったデータをもとに議論するのはいつになるのか。

<杉山座長>

第3回, 4回会議である。

<ハッカライネン委員>

そのデータは、若者に関するものなのか。

<杉山座長>

若者に関するデータもある。あとは施策1, 4, 5, 8に関するデータである。

<ハッカライネン委員>

ワークショップについて議論することがメインの課題に見えるが、そうではないという理解でよいか。

<壬生副座長>

おそらく、二本柱（施策1, 4, 5, 8の分析と、施策6についてのワークショップ&アンケート）とあっていいと思う。若者の市政参加の推進についてカフェ等で意見を聴くということと、視点をかえて施策1, 4, 5, 8についてデータを基に議論していこうという、ちょっと欲張りな内容になっている。

<杉山座長>

分析については第2回, 3回, 4回という形で話せる時間がある。

<兼松委員>

去年の基本方針3の現状把握をした際は、委員が2人1組になって色々な方のところにヒアリングに行き、生データを沢山集めた。客観的にも立体的なデータが取れたと思っているが、今年は、1回のワークショップのデータでよいのかちょっと不安な点である。その場にどういった人たちを呼ぶのか、ということもあるが。

ワークショップ結果だけじゃない、何か別の見方がないだろうか。1年かけて1回のワークショップをゆっくりやるのはペースが遅い気がする。

<杉山座長>

今ワークショップで想定されているのは、政治に関心があるか、将来そういうことを勉強したいと思っている人を中心に聴く形になっていて、無関心層や参加しづらい人には聞ける仕組みになっていないという見方もある。

<兼松委員>

極論を言うと、同じ分析の仕方、アンケートの取り方等を決めておけば、自分のまわりの人を集めて、「僕やりますよ」ということです。自主的に、やれる範囲で委員それぞれの周りの方をまきこんでやることもありかと思う。

<杉山座長>

ワークショップの手法そのものについても意見があったかと思うが、その点についてはどうか。

<兼松委員>

例えば、ハッカライネン委員と僕とでカフェに行って学生を4人くらい呼んで、6人で話す、というようなことでもいいのではないか。アンケートはちゃんと用意しておくとして。

<ハッカライネン委員>

先にアンケートで「どういった場なら参加したいか」と聞いてもいいかもしれない。

<内田副座長>

私達が用意した場に青少年を招くというよりは、彼らが居る場に私達が出ていく事も必要だと思う。アンケート片手に学生がいる場について、ちょっとやる、のように、多発的にやると、色んな層の話が聞けるというのはあると思う。委員としては活動回数が多くなるが。

<杉山座長>

働いている若い層から話を聴くということに関してのアイデアはあるか。

<内田副座長>

学生時代に NPO やボランティア活動をしていた方達も、働き始めると余裕がなくて、や

りたいけれどできないという話をよく聞く。しかし、そういう人たちに話を聴くためにどこに行けばいいのかは、ちょっと分からない。

<杉山座長>

山野委員にお聞きするが、企業の皆さんの協力を得ることは可能だろうか。

<山野委員>

今話を聞いていて、若者や大学生に対する市政への参加の推進をなぜしないといけないのかを、自分なりに分析してみた。今後のまちを背負っていく若者に対する未来への投資だと思う。青年のような、責任世代の人間が市政に参加してない現状があると思う。ワークショップをするにしても、カフェをするにしても、若者だけに任せるのではなく、一緒に汗をかきながらできるような方法を考えていけたらと思う。その中で、当会（青年会議所）で、バックアップできることがあれば協力させていただく。

選挙のたびに青年会議所では候補者を集めて公開討論会を、若者を交えて実施している。その際も自分達が先頭に立ってやっていく中で背中をみせて、若者についてきてもらうという手法でやっている。そういった形で、一緒にできるやり方で考えていってもらえればと思う。

<杉山座長>

例えば、そういう場で市政参加に関するアンケートについて協力いただくことも、できなくはないということか。

<山野委員>

できなくはない。

<杉山座長>

色々意見を出していただいた。手法や具体的な案に関しては、次回の会議で議論することになると思う。

<事務局>

外国籍市民の方を含めた、マイノリティの方の意見を聴くという話に関してだが、おそらくワークショップでは聞けないと思う。そもそも参加してもらえないだろうから。であれば、ヒアリングのような手法を取り入れるのかどうか議論いただきたい。

<杉山座長>

アンケートとヒアリングで様々な方々に対してアプローチするということもあり得るの

か。

<事務局>

あり得る。どちらか一方、又は両方行うということもできる。

<森川委員>

最終的に、アンケートの結果やワークショップで得られた若者の意見というのは、どんな風に使われていくのか。今回のこの取組がどんな役割を担っていかようとしているのかという点がまだ共有できていない気がする。私は、アンケート項目を今の話だけで設定するのは難しいと感じた。例えば、ワークショップ、アンケートで、「若者がどんなところにハードルを感じているのか」ということを明らかにできたら、それを各部署に投げて、「これから先、若者を巻き込まないと駄目なんだよ」と言うことができる。その際に、参考になるような情報を提供して、かつ、若者の市政参加を推進するようにプレッシャーをかけることもできる、というようなことだろうか。そんな風に言ってもらえれば、アンケートに必要な内容についても意見が言える。そのため、今回の取組が担おうとしている役割が何なのか、もう少し説明いただきたい。

<事務局>

最終的には、分析して見えてきた課題は、第3期の計画に反映していきたいと思っている。中には、すぐにでもできるものもあると思う。そういうものについては、全ての局区等が集まった会議体「市民参加推進会議」というものもあるので、そこでフォーラムで出た意見を私どもの方から発信させていただくことは可能である。計画に反映することが前提だが、すぐにできるものについては色々なチャンネルで、庁内で促していく。

<杉山座長>

そういうことも含めた設問項目でよいと理解した。

予定の時間を超過したが、具体的には次回の話し合いということをお願いしたい。

最後に報告事項について、事務局から説明をお願いします。

6 報告事項

報告事項(1)

<事務局>

(資料3「新たに設置された附属機関等について」、資料4「新たに設置された附属機関等に係る協議結果(一覧)」報告)

<杉山座長>

この会議で「この会議が非公開なのはおかしいのではないか」という意見が出された場合、それは相手に届くものなのか。「これは公開にすべきじゃないか」というような。

<事務局>

「こういう意見が出た」ということについては、担当部署にお伝えする。

<杉山座長>

了解した。何か御意見、御質問はあるだろうか。

<兼松委員>

④の「京都市はぐくみ推進審議会」の公募募集人数6名というのは、多い方なのか。

<事務局>

会議の大きさにもよると思う。この審議会の委員定数は30名である。

<兼松委員>

今後若者の市政参加について考えていくのであれば、人数だけではなく、「若者が何%」というような情報もあるとよい。

<事務局>

審議会等への若者の参画も重要であるので、また次回の会議でお伝えしたい。

先ほど資料3の説明で、公募委員をいれる基準を指針に規定したということを説明したが、我々としては、よほどの特定分野で専門的なスキルがなければ議論できないものや、業界団体内での意見交換に留まるもの、そのような特別の事情がないものについては全て市民公募委員を置くべきということで、昨年度末から今年度当初にかけて、整理をした。しっかりした指針ができたと思っているので、これからも皆さんから「なぜこれに公募委員がないのか」と言われないように、引き続き頑張っていこうと思う。

<ハッカライネン委員>

指定管理者とは、そもそもどういうものか。

<事務局>

大学のまち交流センターや国際交流会館などの公共施設を、京都市ではなく、民間事業者に運営していただくという場合に、運営していただく事業者をどこに指定するかということを決めるのが、指定管理者選定委員会である。法人等の様々な情報を扱うため、非公開の場合が多い

例えば国際交流会館は、国際交流協会という財団法人が指定管理で運営していただいている。大学のまち交流センター、いわゆるキャンパスプラザ京都については、大学コンソーシアム京都という、各大学から人を出していただいで組織している団体に管理をお任せしている。

<ハッカライネン委員>

例えば、国際交流協会でなくても、管理を受託することはあり得るのか。

<事務局>

あり得る。我々に任せてくれれば、もっと素晴らしい運営をする、と提案してくるところが出てくれば、競争していただき、審査を経て、よりふさわしいところをお願いすることになる。

<杉山座長>

では、次に、報告事項2について、事務局から説明をお願いします。

報告事項（2）

<事務局>

（資料5「市民参加に係る新しい事業や取組」報告）

<ハッカライネン委員>

「こういう冊子を作りましょう」や、「こういうポータルサイトを開設しましょう」といった取組はどこでどのように決まるのか。

<事務局>

それぞれの部署で前年度に予算を組んで事業化を図り、実施している。市民の方と話をしながら作ったりもする。取組のきっかけとしては、市役所の各部署が「市民と一緒にやりたい」ということを発信して取り組むこともあるし、商店街や大学、その他の団体から「こういうことをやりたいと思っているが、市役所どうですか」という提案をいただいて、一緒にやることになる場合もある。様々なやり方があり、必ずしも市役所が全部お願いに回っているものばかりではない。

<兼松委員>

文化市民局の「明治の精神と知恵を今と未来に活かす事業」に学生が参加したら、それは市政参加になるのだろうか。

<事務局>

市政参加になる。

<兼松委員>

ボランティアじゃなく、自分のアイデアを発表するようなものも市政参加になるということが分かった。

<ハッカライネン委員>

自分の意見を市役所にもっていったら実現できる、というようなことは、誰も知らないと思う。そういうやり方もあるということを伝えられたらよい。

<事務局>

区役所では「区民提案型支援事業」を行っている。毎年市民の方々や団体の方々に呼びかけ、提案があった事業に対して区役所が基準に基づいて審査し、認定した事業には資金を支援している。毎年やっているが、ハッカライネン委員が知らなければ、我々の発信力不足かもしれない。各局にも周知して、より皆さんに伝わる方法を考えていきたい。

<杉山座長>

他に御意見はありませんか。活発な御意見ありがとうございました。

<内田副座長>

菅谷委員，何か御意見は。

<菅谷委員>

まちづくり支援助成について。私どもの地域も、5年継続しており、課題解決のためにいつも申請している。どんな事業をするかということをプレゼンまでしに行くが、税金なので、その位の覚悟をもってやらないといけない。

<ハッカライネン委員>

私達も助成金をもらっている。これ（資料5「市民参加に関する新しい事業や取組」に掲載されている事業）はそれとは違うと思ったので先ほど質問した。これらは助成金で行っている事業が掲載されていたのか。

<事務局>

助成金の事業に限らず、市民参加に関する新しい事業を全て掲載している。

<ハッカライネン委員>

助成金については知っていたが、ここに書かれているような事業は知らなかった。

<杉山座長>

色々な方法で行政に意見を届けたいということですね。

<ハッカライネン委員>

知らないことが多すぎるので。

<杉山座長>

貴重な御意見ありがとうございました。

7 閉会

■傍聴者の意見

<杉山座長>

傍聴の方から、感想や御意見をいただきたい。

<傍聴者>

第1回から、新しい委員の方がいらしてもこれだけ活発な議論ができたということは、それぞれの委員の方が市民参加の推進ということについて経験や知識があり、意識が高いということと同時に、事務局から事前に説明があったのだろうなと思いながら拝見していた。ということは、施策の進捗や課題について確認するだけではなく、委員の中には既に動きたいという気持ちも出てきていると思うので、その調整はかなり大変だろうと思う。楽しみにしている。

<杉山座長>

ありがとうございました。

<傍聴者>

外から見ていると分かることがある。今日出ていた意見は、「どこまで突っ込んでいいのか」「どこまで切り込んでいいのか」と様子を見ながら発言されていた方が多かったように思う。「これが、事務局と座長等との既定路線で進むのならば敢えて質問はしないが、ちゃんと受け止めてもらえるのなら発言しますよ」という空気を感じた。

資料4について。2年前に初めて見た時は、ほとんどが「公募しない」となっていて、何のためにこの資料があるのかも分からない位だった。それを思うと、この2年間で市の皆さんが頑張りながら、公募委員を受け付ける方向で調整していったのだなと思うし、こ

のフォーラムの未来は明るいと思う。

<杉山座長>

ありがとうございました。

<事務局>

本日も、熱心に御議論いただき、大変ありがとうございました。活発に御意見を頂戴できたので、我々も、事務局としてもしっかり応えるべく頑張っていきたい。引き続きよろしく申し上げます。

以上